

# 月報 シオン山

2022年9月4日発行 (No384)

\*\*\*\*\*

日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下道津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

\*\*\*\*\*

## 【月間聖句】

草は枯れ、花はしぼむが わたしたちの神の  
言葉はとこしえに立つ。

(イザヤ書 40章8節)

## シオン山教会と私

下川礼子

シオン山教会は、私にとっていつも身近な存在でした。両親が西南女学院に勤めていました関係で、幼少時からこのシオンの丘の校宅に住んでいました。周りのほとんどの方が教会員で、幼稚園、中学、高校と西南で学びましたので、日曜日には礼拝に出席することが当たり前の生活でした。中学二年の時ごく自然な成り行きでバプテスマを受けました。でもこの環境に守られた中で信仰は、高校を卒業し実家を離れてしまうと次第に教会生活からも遠ざかってしまうような幼い信仰でした。やがて結婚、子育ての時期があるのですが、困難な事、悲しい事に直面すると神様を思い出すという身勝手なものでした。退職後に同居した母が、毎日曜日我が家からシオン山教会に通うようになって

私は見送るだけでした。やがて母の召天を機に教会への行き来が増えてくると、時々礼拝に出席するようになりました。といっても数年間は、教会に来て礼拝で過ごす時間と、家族のもとで過ごす普段の生活は切り離されたもの。み言葉、讃美、皆様の優しい声かけはとても心に響き、その教会での居心地よい時間を都合の良い時だけ生活の中に取り入れていました。ということは、神様をも都合よく位置付けた態度でした。

このような私でしたが、神様はずっと離さずに導いてくださいました。無牧師の時期にお聞きした教会員お一人お一人の証には、各人のキリスト教との出会いの新鮮さが語られ、強い信仰には憧れを感じました。2014年に伊藤光雄牧師が就任されその力強い宣教に私も徐々に導かれ、また皆様との交わりの中で教えられ、神様と共に歩む信仰を心から願うようになりました。教会から離れていた時もずっと私を教会員として見守り、母と共にある私の家族を覚えていつも祈っていただきました皆様に心から感謝いたします。シオン山教会創立 100 周年の記念の時に、母からバトンを受け取ったように、私が皆様の喜びの中に加えていただけましたことは大きなお恵みだと思えます。

100 周年記念行事では、「花いっぱいプロジェクト」で、用いていただきました。この素敵なネーミングは、どなたが付けてくださったのでしょうか？この紙面を借りて御礼を申し上げます。2021年2月、スチュワードシップ月間での齋藤弘司先生の宣教に勇気をいただきました。求めるばかりではなく今の私にできることは何でしょうかと神様にお祈りしました。感謝、喜びの気持ちをお花で表せたらいいなと思い立ち、「花と緑の相談所」へかけてみた電話が始まりでした。そこで西南女学院卒業生の御園和穂さんと出会い、彼女のご指導によって私のこの思いが形あるものになり、記念式典当日にはきれいな花がいっぱい咲いてくれました。一年半もの長い間ご協力くださり、日曜日は特にお忙しいスケジュールの中、記念礼拝にも出席くださいました御園様とのご縁は今後も大切にしたいと思っています。

寄せ植えでは、真ん中のコルジリネを取り囲むように千日紅の可愛いらしい花が彩りました。千日紅の花言葉には「変わらぬ愛、永遠に続く愛」とあります。いつまでもキリストの愛があふれ、愛の業がなされる教会であってほしいです。

受浸歴から言えば 60 年にも及ぶ私の信仰ですが、その軌跡をたどると実にあやふやな細い線であり、時には小さな点でかろうじてつながる点線でしかたどれない時もあります。今やっと実線らしきものになってきました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

「神に近づきなさい。そうすれば、神は近づいてくださいます。」

ヤコブの手紙 4 : 8